

科目名	哲学	対象学年・時期	1年 前期
履修時期	1年 前期	単位数・時間数	1単位・15時間
授業概要	<p>人間は、生まれてから死に至るまでの過程でさまざまな経験をする。人間が経験する出来事を、常識や既存の考え方に拠らず捉え直すことは、人間の存在価値や物事の価値についての理解を深めることにつながる。この授業では、代表的な哲学者の思想を通じて、多様な物の見方や事象の捉え方を学ぶ。</p> <p>看護は、人間にとって避けることのできない「生老病死」に直接関わる職業である。「生老病死」は人間にとって自己の存在を大きく揺るがす出来事である。そのため看護者には、対象が経験していることの意味を深く考えることが必要であり、人間を多角的に捉える視点をもつことが求められる。この授業では、そのような事を念頭に置きながら、人間理解の基礎として哲学を学ぶ。</p>		
授業形態	講義		
学習目標	<p>① 人間存在の意味や価値について哲学的に考察し、柔軟な思考力を涵養する。</p> <p>② 多角的に人間を理解し、看護に生かすための基礎理論を身につける。</p>		
授業計画	<p>1. 古代ギリシア人の世界観</p> <p>2. 古代ギリシアの自然哲学</p> <p>3. ソクラテス「無知の知」</p> <p>4. プラトンとアリストテレスの哲学</p> <p>5. 中世のキリスト教哲学</p> <p>6. デカルト「我思う、ゆえに我あり」</p> <p>7. ロックの人間悟性論とカントの認識論</p> <p>終講試験（45分）</p>		
使用テキスト	テキストは使用せず、毎時間プリントを配布する。		
事前・事後学修			
評価基準・評価方法	平常点（出席状況、課題等）および終講試験により総合的に判断し評価する。終講試験は論文形式とする。		
備考	哲学というと難しいという印象があるかもしれないが、何も特別なことではない。この授業では絵画資料や哲学者たちのエピソードも交えながら、哲学に対する理解を深めていきたい。		